

第20次教育支援の旅は、急逝された故今村前副理事長の法要を釈尊生誕地にて行った後、訪問活動を始めました。バイラワ空港から笠井ホテルに至る道路には多くの車やバイクが走り、自転車に乗っている人も多かった。通称町田街道沿いには中層ホテルや開発公社の建物、工場などが昨年以上に多く見られました。今回旅の主要課題の一つであるマズワニ小中高等学校の新川MMR (MultiMedia Room)の建設状況および同小学校校舎改修工事の進捗確認をすることが出来ました。また建築後15年以上経過している老朽校舎の実情も観察できました。制服の寄贈ではマズワニ高校生及びマヤデビー小中学校全生徒が真新しい制服を着て私たちを迎えてくれました。この地区支援学校のすべてが中学校となり、大半の学校で教室の準備も進んでいます。これから高等学校への対応が必要となるでしょう。ルンビニからプトワルまでの国道は、一部工事中であるものの両側に歩道が設けられた幅広い立派な道路です。空港が国際化されるに伴って周辺環境も様変わりしそうだと感じました。

タンセン地区では3校を訪問しましたが、ミレニアムHSSでは昨年より幼児教育の環境・内容は一段と進んだように感じました。またJVTではネットワークを使った学習環境が整備されていたことに加え専門課程には設計・製図、木工、配線の実習が行われていて、新教育制度に準じた教育の様子を見ることが出来ました。昨年同様7校11名の学長・校長と懇談会をしました。ミカの会会員によるオカリナの合奏付で日本の歌とレッスンフィリデーを皆で合唱するなどして盛り上がった交流でした。

カトマンドゥ地区ではパドマカニヤ女子校を訪問し、例年通り国際ソロプチミスト町田-さつき殿からの寄付金で購入した図書をお届けしました。同校では150名収容の寮を建築中で、4Fには5Fまで吹き抜けのホールを設けるとのことです。完成すると全国からの女子を受け入れることのできる立派な施設となるでしょう。次にともこ学校ですが、悪路を車に揺さぶられて6時間かかってたどり着きました。山の中腹に建てられた校舎の校庭に寄贈したジャージを着た全校生徒に迎えられ、キラキラと輝く瞳に触れ疲れも吹き飛ばす思いでした。図書・スポーツ用品など多くのプレゼントを無事届けられてホットしました。毎年行っているルンビニ地区全支援校を対象にした基礎調査結果については別報告の予定ですが、以下訪問した学校について概要を報告します。

(写真:加藤誠一、加藤寛司両会員が撮影した写真も使わせていただきました)

記

期 間; 2018年2月25日～3月6日

参加者; 日本から11名(肩書・敬称略、本文中も同じ)

齋藤 謹也、植草 光子、加藤 誠一、加藤 寛司、加藤 雅子、
齋藤 美江子、中野 千恵子、西澤 忠、松浦 陽子、吉田 久子、和田 泰子

現 地; ヌルブ ラマ氏

添乗員; マハルジャン ゴビンダ氏(ともこ学校に同行)

訪問地; (宿泊ホテル)

2月25日 羽田空港⇒シンガポール・チャンギ空港

2月26日 シンガポール(ペニンシラ エクセルシオール)

2月27日 シンガポール・チャンギ空港⇒ネパール・トリブバン空港⇒バイラワ空港⇒ルンビニ(笠井ホテル)

2月28日 (笠井ホテル)⇒聖地公園⇒シリ・マズワニ小中高校⇒シリ・マヤデビー小中学校⇒シリ・アマリ小中学校⇒(笠井ホテル)

3月1日 (笠井ホテル)⇒かつての寺子屋⇒シリ・ルンビニ小中高校⇒シリ・シリラム小中高校⇒シリ・ヤナトラハ小中高校⇒シリ・グルワニマイ小中高校 ⇒シリ・サラソティ小中学校⇒(笠井ホテル)

3月2日 (笠井 ホテル)⇒みすず小中学校⇒タンセン ミレニアムHSS⇒モホン女子校⇒JVT⇒(シリナガルホテル) ⇒ナグロレストラン:懇親会⇒(シリナガルホテル)

3月3日 (シリナガルホテル)⇒看護学校「休校」⇒バイラワ空港⇒カトマンドゥ空港⇒(バイシャリホテル)

3月4日 A班;(バイシャリホテル)⇒バルワ村 ともこ学校「シリ・チャンディカ中等学校」⇒(バイシャリホテル),
B,C班;カトマンドゥ近郊状況視察・調査

3月5日 (バイシャリホテル)⇒(チャンドラギリ)⇒パドマカニヤ女子校⇒(バイシャリホテル)⇒ネパール・トリブバン空港⇒チャンギ空港経由⇒

3月6日 ⇒羽田空港



1 ルンビニ地区活動

今回訪問したルンビニ地区学校の昨年度対比生徒数を表1に示します。いずれの学校も今年から中学校以上の学級編成となる予定ですが、今後2～3年後には高校設置問題が生じると考えられます。全体的に見れば在籍生徒数は横ばいからやや減少傾向が見られます。少子化の影響がルンビニ地区にも及んでいるのでしょうか。訪問した学校には、鉛筆、消しゴム・鉛筆削り器を渡しました。(他地区含め全体で鉛筆3,000本、消しゴム600個・鉛筆削り器300個)、またテニスボールを各学校に20～30個(全部で300個)寄贈しました。以下訪問した各学校の状況説明です。

表1「既支援訪問校の在籍生徒数」

訪問日	学校名(略名)	2017(H29)年3月調査在籍生徒数(名)					2018(H30)年3月調査在籍生徒数(名)					増(減)
		入学前(3、4歳)	小学校	中学校	高校	合計	入学前(3、4歳)	小学校	中学校	高校	合計	
2/28	マズワニ小中高校	41	100	104	74	319	44	106	101	73	324	5
	マヤデビー小中校	30	124			154	41	95			136	(18)
	アマリ小中学校	52	220			272	52	211			263	(9)
3/1	ルンビニ小中校	17	109	42		168	24	130	32		186	18
	シリシリラム小中高校	38	319	150	29	536	26	284	148	78	536	0
	ヤナトラハ小中高校	67	252	148	232	699	46	287	159	234	726	27
	グルワニマイ小中高校	49	310	149	65	573	47	285	150	60	542	(31)
	サラソティ小中校	36	186			222	29	155			184	(38)
	ルンビニ訪問校合計	330	1,620	593	400	2,943	309	1,553	590	445	2,897	(46)
3/4	ともこ学校						18	66	66	27	177	177

1) シリ・マズワニ小中高校

2017年度主要事業計画の一つであり、永年の懸案であった新川MMR(MultiMedia Room)を建築中で、旧校舎解体途中毒蛇が壁中に住んでいたなどにより完成は少し遅れて2018年夏頃になりそうです。完成すればNetwork環境が整うなどルンビニ地区最先端学校の一つとなるでしょう。高校生は専門科目にパソコンを使って学習し、より一層の技能を身につけて次に進むことが可能となります。

一方で建築後19年になる小学校の改修工事も進んでいて、2017年度中には真新しくなった校舎ができそうです。校舎整備支援金にご寄付を下さいました皆様方に厚くお礼を申し上げます。更に高校生に毎年制服を送り続けていて、今年度もまもなく高校生になる8年生及び9年生55名が新制服を着用し、私たちを迎えてくれました。



・基礎工事ができた新川MMR



・改修工事中の小学校



・制服を着た高校生たち

2) シリ・マヤデビー小中校

約130名の子供たちに制服をプレゼントし、早速着用して出迎えてくれました。この制服を縫製した工場も見学しました。若い男性がミシンを踏んでいて、地域の雇用に少し貢献したかと嬉しく思いました。今後も継続できる工夫が必要です。小学校入学前の幼児(3、4歳)が44名いて1年生と同室で勉強しています。国から派遣されている保育士が教育を担当しているようですが、単独の幼児教室が欲しいとのことでした。



・揃いの制服で歓迎された。子供たちの体型に合わせ一着ずつ作ってくれた縫製工場(右写真)



・教室の書棚には本が整然と並べられていた



・同居している幼児たち。・(右)物置に使っている部屋があるので、整備して幼児教室として活用すると良いと思う



3) シリ・アマリ小学校

敷地が狭くなり、周囲環境が変わっていました。この学校は小学生までしか収容できず、6年生になったら川向こうの中学校(遠いとのこと)に通学しないといけない。敷地が狭いので出来れば現校舎の上に2階建ての教室を作りたいとお話がありました。またコンピュータ教室も設けたいと希望を述べられました。嬉しいことに山下井戸に水タンクが設置され、トイレ・手洗い場に活用されていました。



・変わった付近



・校長にテニスボールを渡す齋藤理事長、ミカの会が造った建物を2階建てにしたい。



・活用されている山下井戸



4) かつての寺子屋

現在は立派な建物でコミュニティセンターとなっています。残念ながらどなたも不在のため活動内容など聞けませんでした。



[World Terakoya Movement]
“Madhubani Community Learning Center, Rupandehi”

5) シリ・ルンビニ小中高校

建築後18年経っている小学校校舎・図書館は傷みも激しく改修した方が良いでしょうが、訪問時に敷地も狭いので学校全体の移転を考えているとの話が出ました。移転先の土地を視察しましたが、道路を挟んだ土地を購入したとのこと、校舎移転は容易ではなさそうな気がします。



・小学校・図書室はいたるところに亀裂が入っていた。

・購入したと説明があった土地(道路両側)

6) シリ・シリラム小中高校

昨年度改修工事をして整備した校舎ですが、子供たちが壁にボールをぶつけて遊んだりして一年経つと大分汚れてしまう。コンピュータ教室・図書室を作りたいとお話がありました。



・鉛筆を一人づつ手渡して出来て嬉しいな、ナマステ！の元気な声が返ってくる

7) シリ・ヤナトラハ小中高校

新しい校舎にはパソコン教室があり Acer製PC9台、Brother製 プリンター1台が設置されていました。スタンドアロンのようなようです。また人体模型などの実習室もありました。ミカの会が建てた建物は建築後16年経っていますが、亀裂が少しあるもののそれほど酷くなさそうに見受けられます。部分補修をすることで良さそうです。電気関係の図書と図書室設置の希望を述べられました。



・PC教室

・人体模型、計量秤などが置かれている実習室

・少々の亀裂が見受けられる校舎

8) シリ・グルワニマイ小中高校

四つ葉会の皆さんが手縫いされた袋(約300枚)を校長に手渡しました。図書室にはミカの会などが訪問した歴史的写真が掲載されています。保管室にはパソコンも設置されていますが、図書の保管と併せてもう少し管理に意を注いで欲しいと思いました。



・袋を校長に渡す

・図書館と保管室

・訪問履歴が写真で掲載

・校長と訪問会員集合写真

9) シリ・サラソティ小中校

お祭りで学校は休みでしたが、校長、先生に鉛筆・テニスボールを渡しました。今年中学生が誕生するので教室が建築されていました。更に増築するための建物の骨組みが出来ていました。また机・椅子は材料を購入済で、これから製作し2017年度中に設置される予定です。



・建築済の教室(8教室、1職員室)

・新築中校舎

・鉛筆(600本)、消しゴム、鉛筆削り機、テニスボールを寄贈

10) みすゞ小学校

バイラワロータリークラブからの支援の話が有り立ち寄りました。建築後23年も経っている校舎ですが、地震の影響も受けて教室が分断されていて痛ましく見えました。しかし奥の方にODAが立てたと思われる比較的新しい校舎が見え、更に校舎を建築中でした。



・校門

・名盤(1995年建築、2009年増築)

・地震の影響により校舎分断、ODA建築校舎

・鉛筆、テニスボールを渡す

2 タンセン地区学校訪問・懇親会

この地区は今年度から友好・交流活動を主にするようにしました。訪問学校も2～3校に絞って行うこととし今回3校を訪問しました。また今まで交流してきた学校の先生方を一堂に招いて恒例の懇親会を開きました。

1) ミレニアムHSS

この学校は昨年からの幼児教育に力をいれていて、現在100名の幼児が在籍しており、先生11名で運営しているとのこと。内容も充実しているように見受けられ、幼児教育の参考になる学校だと思います。校長にバレーボール、バドミントン及び鉛筆、消しゴム、鉛筆削り器を手渡しました。



・街中にある校舎



・入学前幼児教育に力を入れている。部屋の中に遊具もある



・運動用具、鉛筆などを校長に渡す

2) モホン女子校

ほんの短時間であつたが立ち寄って、元気な子供たちと記念撮影をしました。



・大分ふるくなった校舎



・少し緊張気味の子供たち



・運動用具、鉛筆などを校長に渡し、記念撮影



3) ジャナタ (JVT) 小中高校

この学校ではパソコンを活用して学習できる環境が整備されています。また専門科目の実習室もあり、製図・木材加工・配線作業などを実習していました。



・学校の門(Janata Model Secondary School)



・PCが20台LAN接続されていて、学習に使われている。“Click on the name of each animal and listen”



・実習教室(木材加工、配線作業、製図など)



・運動用具、鉛筆、消しゴムなどを校長に渡す

4) 懇談会

近年恒例となったNagroレストランに7校12名の学長・校長にお出でいただき懇親会を開きました。昨年にも増して良い交流が行われたと思います。日本からの会員がオカリナの演奏付きで唱歌(朧月夜、浜辺の歌)を合唱し、最後に皆で“レッサム フィリリ”を歌い盛り上がった交流会を終えました。



・膝突き合わせて懇談



・ミレニアムH.S.S校長 Chdeshwor Sharmrさん;タ
ンセンで皆さんをお迎えます。20年交流が続い
ていることに感謝します...



・トリバン大学学長Jeevan Bahadus Thapaさん :
また顔を合わせることに出来嬉しい。20年前から学
生の力になって頂き感謝します...



・齋藤理事長挨拶:若い人たちも連れてきて交
流したい...

3 カトマンドゥ地区

1) パドマカニヤ女子校

この学校には毎回国際ソプロチミスト町田-さつき殿が女性の地位向上のために、寄付金により関連の図書を寄贈しています。今回学校と調整した図書を準備して訪問しました。校長は不在でしたがテニスボールなども渡しました。女子寮は建物は躯体がほぼ完成していました。

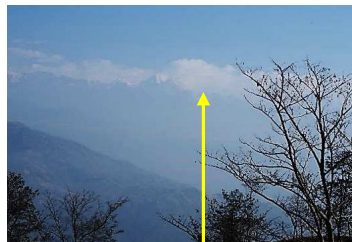


・国際ソプロチミスト町田-さつきからの寄付金により女子力Upの本を寄贈、併せてテニスボールも渡す。(校長不在のため英語の先生に)

ほぼ建物が出来た女子寮(39室150名収容で
きる)

2) ともこ学校(シリ・チャンディカ中等学校)

カトマンドゥ中心部から距離60Km、途中ヒマラヤ山脈の見える峠もあり楽しかったのですが、かつて経験したことのない悪路に揺られて6時間かかってバルワ村に到着。(3年前の大地震の時には、今回も同行してくれた「ラビさん」は4回も救援物資を運んできたこと聞き感服しました。) 私たちの到着を待ちわびていたと思いますが、校長が村の食堂に昼食を用意していて一緒にご馳走になりました。うれしい心使いにダンネバード。そこから更に上った学校に約束時間より大幅に遅れて到着したにも拘わらず、村長、校長、先生方及び子供たちが待っていてくれました。子供たちのジャージを着た元気な姿をみて、少し疲れもとれまた何より多くのプレゼントを無事届けられてホットしました。新築した校舎及びその2階に約30㎡の図書室、そして本棚に整然と収容された多くの本を見ることが出来ました。学校には幼児から10学年まで177名在籍していて、現在教室は9教室しかなく、ホールに2クラスが間借りして勉強しているのでミカの会図書室前(2F)に2教室を増設したいと校長から話がありました。今回車の荷台に乗車し同行してくれた“マハルジャン ゴビンダさん”、“マハルジャン ラビさん”及び安心して乗っていられた車の運転手“リンジンさん”にこの紙面を借りても感謝します。



・ヒマラヤ(ドルレラッパ)の頂きが見えた



・道路を造って1時間ほど待たされる。



・砂塵で視界不良、片側谷底の道を行く



・悪路により荷物が脱落(後ろのバスが拾ってきてくれた)



・校舎全景と図書室横の教室内部



・ここに2教室を増設したい
・校舎側面の名盤

・学校から前方山中腹にバルワ村役場などが見える。



・村役場に行くには谷底まで降りて上る

・多くのプレゼント品(本・辞書・スポーツ用品など)



・村長から感謝状を頂く

・村長から全校生にジャージを渡す



・図書室と整然と収容された図書



श्री चण्डिका माध्यमिक विद्यालय

SHREE CHANDIKA SECONDARY SCHOOL

पाँचपोखरी थाङ्पाल गाउँपालिका वडा नं.-२, बुन्वा
Panchpokhari Thangpal Rural Municipality-2, Barawa
सिन्धुपाल्चोक (Sindhupalchok)
स.सं-२०२० (Est'd: 2020)

TOMOKO BUILDING + MIKANO KAI LIBRARY